

子ども劇場ニュースレター

Society of Children's Theatre Works & Community Development

No. 55

発行責任者 中島久美子

くまもと子どもわくわくアートフェスティバル 2024

北海道在住の創造団体が来熊！！



3月23日(土)

山鹿公演・太田ひろし「マジカル1.2.3！」
大津公演・札幌NKミュージック
「はじめましておとのおともだち」
宇城公演・人形劇団えりっこ
「みにくいアヒルの子・赤ずきんちゃん」
八代公演・OHオフィス「KUROのアトリエ」

3月24日(日) 熊本県立劇場

演劇ホール…OHオフィス KURO
「マイ・クロ・シアター」
音楽リハーサル室…人形劇団えりっこ
「みにくいアヒルの子・赤ずきんちゃん」
大会議室…太田ひろし(OHオフィス)
「ワンダフル・ワーカー」
和室…札幌NKミュージック
「はじめましておとのおともだち」

今回も乳幼児親子対象の作品や人形劇、みんなで楽しめる
ジャグリングやマジックと様々な作品に出会えます。
ぜひ、たくさんの方にご参加いただきたいと思います。
参加費: 子ども500円(0~2才無料)
大人 1000円
詳しくはチラシ、HPをご覧ください。

熊本子ども劇場は熊本県に暮らす子どもたちに文化体験の場をつくり続けて52年になりますが、テレビやゲームだけではなく、子どもも大人もインターネット上でも鑑賞の機会や動画視聴が身近になりメディアに触れる時間が増え続け、心身に影響を及ぼしていると聞きます。

今後、乳幼児時期からの「生の舞台鑑賞や自然体験/遊び」が益々必要だと感じています。脳科学の観点でも研究が進んでいるそうです。1年に1度でも生の文化芸術体験の機会となれば幸いです。

1. くまもと子どもわくわくアートフェスティバルお知らせ
2. フェス2024学習会・ベイビーシアター・海外作品の報告
3. 文化庁アートキャラバン、ホール主催鑑賞会の報告
4. やつしろ子ども劇場 報告
5. これからのお知らせ

発行：特定非営利活動法人熊本県子ども劇場連絡会
〒860-0821
熊本市中央区本山1丁目6-9白木ビル3階
TEL 096-356-0741 FAX 096-356-0780
e-mail info@kumageki.jp
<http://www.kumageki.jp>

(編集：東坂)

子どもの権利条約学習会 報告

子どもの育ちは大きな木～根っここの育ち・育ちの順番～

子どもの権利条約学習会

＜講演会＞講師：広木克行氏（神戸大学名誉教授）

11月26日（日）@熊本県民交流館 パレア 会議室Ⅰ

昨年の学習会を経て、

もう少し深く学びたいと思い企画いたしました。

子どもの脳の育ちに順番があること。

不登校の子どもが増える理由。

本気で、子どもの声をしっかりと聞くことの大切さ。

学童保育は子どもの生活をする、福祉の機関であること。

広木先生からたくさんの学びと

子ども劇場が果たしていく社会的役割を気付かせていただきました。

舞台芸術を通して社会と繋がり、社会を見直し、

ひとりじゃない子育ての輪が広がることを期待したいとと思います。



＜参加者の感想＞

○今を生きる大切な子供達の為に、まずは子供達の声に耳を傾け、聴くことを大切にしようと感じました。

まだまだお話を聞きしたかったです。ありがとうございました。

○幼児期に“自分”をしっかりと育ててあげられるよう、保育していきたいとおもっています。3才児クラス、自由ほんぽうな子がいて、でもこういう姿にこそ「こどもらしいのかな・・・」と考える今日この頃です。これが学校に入れば、はみだす子と見られてしまうのかな、、、とおもうと心配になりますが、だからといって型にはまつ子を育てるのではなく、一人ひとりのすてきさを大切に、そして年長にむかって「むれ」を「集団」に！学校にあがるための幼児期ではないんだ！ということをあらためて大切にしていこうとおもいました。

○親子の縦の関係⇒友だちとの横の関係⇒他人とのナナメの関係⇒（最初に戻る）親子の縦の関係

を上手に広げて、このサイクルを繰り返して根っ子を太くしていく。そして他者へのあこがれを動力にして、自ら学び、自立していく。これは親となるすべての人に知ってもらいたい、と思う話でした。車の免許をとるみたいに「育児の学科・教習」みたいなのがあったらいいなど。

○具体的な数字を織り交ぜながらのお話しさは、とてもリアルで、そして今更ながらショッキングでした。そんなにもたくさんの子どもたちが生きづらさを感じる社会、学校になっているんですね。社会環境が目まぐるしく変わっていき、それに伴って子ども達の意識や生活も変わっているのに、受け皿や制度が追いついていない、そう感じました。子どもの育ちをしっかりと理解した上での早急な制度改革の必要性を強く思いました。振り返って今の私に何ができるのか？子ども達のSOSにどう寄り添ってあげればいいのか？今日の講演会はそれを改めて考えるきっかけになりました。次回はフィンランドの取り組みももっと聞いてみたいです。

○とてもとても素敵なお話をありがとうございました。自分の中の子育ての軸づくりで参加しましたが、軸がさらに太くなったりと思います。とりあえず、根っ子を太くして自分がまず、'Brienない事のこと子供を信じられる自分になること。これから、もっと子どもへの愛信頼度を深く根を張って自分軸幹を太くしていきたいです。宿題の話、達成動機、チャム期・クリーク期もやもやしていたことが固有名詞になって認識できると、安心納得できます。

○親子関係、脳の発達、不登校やいじめの問題まで盛り沢山の内容で、もっと一つ一つの内容を詳しく聞きたかったです。不登校の子どもの言葉の中で、「生まれてこない方がよかった」という紹介がありましたが、とてもショックでした。不登校や自殺の数にも驚きましたが、国がその調査を詳細にしていないという事実はもっとショックでした。子どもをそこまで辛い思いに追いつめた原因は何なのか？もちろん家庭や本人だけの問題ではなく、社会全体の責任として子どもを守っていくことが、必要だと考えさせられる学習会となりました

○「いじめ」というフワッとした言葉を、もうやめた方がいいと思っています。もはや犯罪。あと、被害者にもいじめられるような理由があるという意識。加害者を擁護する動き。ケアが必要なのは、加害者のはず。学校教育で同一性、他者の評価を求めすぎて互いに監視をしたり認め合ったりすることができなくなってしまって、そんな環境でいじめもなくなるわけがない。

○学童保育の支援員をしています。保護者目線の考えについてしまいます。“今の子どもの最善の利益”ということばが心にすごくささりました。

○一般参加させていただきました。20数年前に、働いていた仕事の関係で、広木先生の話をきいたことがあり、また、自分の子どもが不登校なこともあります。とても、よい話を聞いて、自分が元気になり、自分が安心しました。現在、保育士として働いていることもあります。目の前の子どもたちにどう接していくのがいいのか・・・そのことのヒントをもらえた学習会でした。

くまもと子どもわくわくアートフェスティバル 2024 ベイビーシアターの報告

ベイビーシアター『かぜのうた』

12月3日（日）@熊本市男女共同参画センターはあもにい多目的ホール

大沢 愛さんのわらべうたをモチーフにした優しい清らかな舞台芸術を 20人のベイビーと 26名の大人たちに届ける事が出来ました。

参加者の皆さん、ほとんどの方が初めてベイビーシアターを体感されたようで、赤ちゃんの反応に驚いたり、笑顔に癒されたり、ご自身が落ち着いたりと、とてもいい機会をつくることが出来ました。

熊本に暮らす親子が安心して子育てが出来るための一つとして『ベイビーシアター』の力をもっと知ってほしいと、あらためて思いました。



講演会『人は輪の中で育つ』～ベイビーシアターの広がりと共に～

講師 大沢 愛 氏 (NPO 法人表現教育研究所)

熊本に『ベイビーシアター』を広げていこうという思いを形に

表現教育研究所の大沢愛さんを講師に迎え、ご自身とベイビーシアターとの出会いや東村山子ども劇場の取り組み、「はじめてのおしばい」プロジェクトについてなどたくさんお話しを聞き、交流いたしました。

乳幼児とその親たち、そのまわりの大人たちが信頼関係でつながりあっていくため、新しい芸術体験の場を子ども劇場と創造団体が共に創ってきたこと。芸術体験の機会をすべての子どもたちに届けていくため、地域に広げていくことをめざしていろんな方々と交流していく必要があること。講演の中からたくさんのヒントや学びが得られました。

子どもの権利条約学習会での広木克行先生からの学び「子どもの根っここの育ち」と重ねて、ベイビーシアターを広げていきたいと思います。



くまもと子どもわくわくアートフェスティバル 2024

海外作品(人形劇)の報告

ハンガリー人形劇『ミクロポディウム』

1月19日（金）@熊本市国際交流会館

小さな小さな趣ある人形。まるで生きているような佇まい。洗練された舞台

薄暗い室内で中学生以上の観客50名が息をのむ。

公演終了後、ハンガリーから来日されたレナート・オンドラシュ氏は
丁寧に私たちの質問に答えてくれました。

やわらかな時間・空間・・・人形劇の奥深さをあらためて感じる機会になりました。

プロデュースしてくださったすのき燕さん、スタッフ、通訳の方本当に有り難うございました。



<参加者の感想>

- 人形のなめらかなうごきに終始驚きの連続でした。前からとても楽しみにしていたのですが期待以上の充実さでした。今とても満たされています。コンアニマは、はじまりの物語かと思いきや、一度この世が終わつたあと、ということで解説まできけてよかったです。すてきな時間をありがとうございました。
- 初めて海外の人形使いの劇を見てとても心を打たれました。大人にも静かなこのような時間を、日本にも広がっていったらいいと思いました。
- とにかく繊細で美しく見入ってしまいました。人形に息が吹き込まれるようでした。人形劇で砂を使う、という演出は初めて観ました。想像の世界に引き込まれ、とても不思議な感覚でした。公立の人形劇場があるなんて、本当にうらやましい。すばらしいです。
- 音楽がステキでした。それに合わせた人形が生き生きと動きお国柄なのか、人形が美しかったです。彫刻の美しさもあるのですね。あの小さな世界に引き込まれました。
- 小さな動作がゆっくりとながれていく時間の中で豊かに感じました。ろうそくの火もすてきでした。バレリーナの動きが細やかでほんとに踊っているようでした。私たちの毎日も1つ1つ意味があるように感じました。至福の時間をありがとうございました。
- あんな大きい手からすごく繊細な動きを人形がしているのがすごいと思ったし、その世界に引き込まれるようだった。とてもリアルな動きで、まるで生きているように見えた。

地域公演で
「双羽幼稚園」
の公演も
ありました！



<双羽幼稚園の担当の先生より>

「ミクロポディウム」

ことばのない表現の世界をこどもたちがどんなふうに楽しむのか興味がありました。小さな舞台に見入って体をゆらす姿に、あらためて、こどもたちの想像する力や感性、をおもしろいな…と思いました。

「さんまいのおふだ」（人形芝居燕屋）

4. 5才児は絵本でみたことがあるのでストーリーを知っている子が多く、安心して「芝居」を楽しんでいるのがわかりました。3才児はその場をおもしろがっていて4. 5才児の笑いが伝染し、「芝居」を楽しんでいるようでした。

ホール主催事業による鑑賞会の報告(子ども劇場は協力団体として関わる)

人形劇「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」

12月10日（日）八代市鏡文化ホール

暗やみの不気味な猫の鳴き声に引き込まれ、あっという間にお話の中へ。舞台の子どもたちのやりとりに一緒にいるかのようについ声が出ちゃったり、笑ったり。

舞台の中で繰り広げられる友だちへの嫉妬や心の葛藤に、小学生らしい頭が微動だにしない！後ろから見ててわかっちゃう！ほど舞台の中にどっぷりハマって心動かされます。

紅子さんの登場にワクワクしたり、よどみの登場にちょっとドキドキ、ワサワサしたり。

思わず泣き出しちゃう小さいお友達、怖くてもママやパパの顔を見て安心してまた見ちゃう。子どもの感情の豊かさと怖くなっても受けとめてくれる人がいて安心して見ることができる。

リアルな舞台で一緒に見るってなんてあたたかいのでしょうか！

ひとみ座の皆さんのパワーが子ども達や大人たちに受け止められて返されて一緒に作られて行くこの日だけの舞台。終わった後のニコニコ顔がどうだったかを物語っています。

公演後に紅子さんがロビーに登場！写真撮影に行列が出来ました。

緊張、怖がる子ども達にも優しく寄り添ってくれる紅子さん！にこちらがにっこりしちゃいます。

今回は八代市鏡文化センター自主文化事業。

地域の方と一緒に生の舞台を感じることが出来て本当に光栄です。



※この他にも津奈木町・大津町のホールでの公演でも協力団体として関わりました。たくさんの子どもたちに生の舞台を届けられ嬉しく思います。



八千代座主催事業（文化庁） 『ピアニカの魔術師』

1月21日（日）、熊本県子ども劇場連絡会は協力団体として運営に関わりました。

インフルエンザ等流行っている中ではありましたがあなたの子どもから年配の方まで、たくさんのお客様が集まり

楽しい時間を過ごせました♪

平和へのアツい思いを語り、ピアニカという楽器に

エネルギーを吹き込む表現者ミッチュリー。

そして、パーカッション、ドラム、ピアノが

ダイナミックに演奏してくれました！

最後は花吹雪に定式幕で閉じるという

芝居小屋八千代座ならではの演出でした。

本当に素晴らしいコンサートでした♪



文化庁アートキャラバン事業（子ども劇場は協力団体として関わる）
人形劇団ひとみ座『9月0日大冒険』の報告

人形劇団ひとみ座『9月0日大冒険』in 御船町

12月16日（土）@御船町カルチャーセンター

文化庁 統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業 等（アートキャラバン2）

この事業に熊本県子ども劇場連絡会は、協力団体として関わりました。

12/16、御船町および近隣の地域の親子がたくさん参加してくれました。

恐竜の町、御船町でこの作品を上演出来た喜び。

会場ロビーは子どもたちの笑顔でいっぱい。

年の終わりに素敵なプレゼントをいただいたような、嬉しい気持ちになりました。



12月17日（日）山鹿市、八千代座公演

今年一番の寒さで開場前には雪もちらつく中、たくさんの方が足を運んでくださいました。

恐竜に興味ある子、人形劇が大好きな子、八千代座という古い建物に興味深々な方、今日を楽しみにされていることが開場前にズラリと並ぶ様子から伝わりました。

物語も、子どもたちがドキドキワクワクハラハラと、大人もキュンとする大冒険が描かれたステキな人形劇でした。

この作品を観ていない方にお勧めしたい！また、熊本で公演出来ることを願います。

ひとみ座のみなさん、本当にありがとうございました。



やつしろ子ども劇場の活動報告

冬休み子どもの家



クリスマスお楽しみ会の翌日に「子どもの家」が始まったこともあり、既に慣れた子、まだちょっとおとなしめな子と様々でしたが、クリスマスやお正月の行事があるので子ども達の心がちょっとウキウキ?な感じでした。

お昼ご飯やおやつ、遊びを決める時は、何故か女子チームと男子チームに食べたいものや遊びたいことが分かれ、話し合いが長くかかりました。

話し合う中で、絶対に譲らなかった事を途中あっさり譲ったり、明日は譲るね!と折り合ったり(結局翌日は忘れていたりしますけど)、子ども達の中で話の落ち着く先を決めていく過程が中々面白かったです。

外遊びは必須!小1~小5まで寒い中、ドッジボール、かくれんぼ、かくれ鬼等、暖かい日に恵れたこともあり、上着も着ないで走り回りました。

食事作り中でカルボナーラは、作り方を検索しながら「子どもの家」仕様が完成し、ソースが足りなくなるほどでした。

最後の日には、中学生と高校生も来てくれて、うれしくて、子ども達引っ付きまくりました。

インフルエンザの猛威には勝てずお休みする子もいましたが、とっても元気な毎日が過ごせました。

事務局：岡部

「うたのにんぎょうげき」0123 才対象地域公演

11月25日（土）@桜十字ホールやつしろ会議室

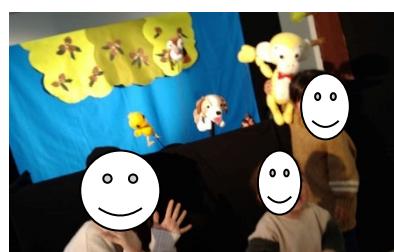
小さな会場で小さな人たちのための小さな人形劇。たまごがコロコロっと音が鳴って出てきたら「キャッキャッ」と笑う8ヶ月の赤ちゃん。スズメがかくれると「あっち~」と教える女の子、歌が始まると一緒に歌っている1才男の子。パパに抱かれながら後ろのママにも出てきた動物を教えてあげる3才男の子。ママと静かにじっと見入る女の子。

小さな人たちが人形にすっと引き寄せられて、一人ひとりがおもむくままに動いちゃう感情の素直さ、豊かさに、パパやママやおじいちゃんやおばあちゃんも笑顔満開!

ゆったり ほんわかあったかく会場を包み込みました。

お家の人に抱っこされながら見る人形劇は、子どもに見せるものではなく、子どもが感じるもののようにですね。

どんなに小さい人たちでもちゃんと感じているんだなと思いました。



これからの活動 お知らせ



九州沖縄子ども劇場連絡会「子ども・みらい・文化講座」 ～子どもたちに歌舞伎を届け続けるために～ 歌舞伎役者が語る『歌舞伎の魅力』

世界無形文化遺産の「歌舞伎」
その魅力に迫る講演会

九州各地の子ども劇場で開催されています。

熊本は下記の日程で開催予定です。

ぜひご参加ください。

★当日午後、同会場にて

定期総会を予定しています。

また、あらためてご案内いたします。

日時：2024年6月7日（金）
10:30～12:00

会場：熊本県立劇場 音楽リハーサル室（予定）

※参加費等、詳細が決まり次第お知らせします。



講師紹介

清雁寺 繁盛 さん

2014年10月より松浦豊和から改名。

1977年前進座入座、現在は座友。

前進座青少年劇場での主な出演「オバケちゃん」「くず~い屑屋でござい」「龍の子太郎」



松浦 海之介 さん

2014年前進座入座、現在青少年劇場責任者。前進座青少年劇場での主な出演「くず~い屑屋でござい」「龍の子太郎」「かんがえるカエルくん」「まげすけさんとしゃべるどうぐ」



劇団 前進座 紹介

1931年創立。歌舞伎界の門閥制度から独立するために、四代目河原崎長十郎、三代目中村勘右衛門、五代目河原崎国太郎、五代目嵐芳三郎らが松竹と袂を分かれ創立しました。東京都武蔵野市を本拠地に、歌舞伎をはじめ、時代劇、現代劇、児童劇まで幅広い演目を演じ、子ども劇場の例会でも親しまれています。



（編集後記）

令和6年を迎えて能登半島地震による自然災害に見舞われ、熊本地震を体験している私たちにしか伝えられないこと、応援できることを考えたいと思いました。
子どもたちが安全で、心が解放できる居場所を早急に作ってほしい。
そして、環境が整ったら、文化芸術の力で地域の交流が復活できるよう支えていけたらと思います。
このことは被災地に関わらず、すべての子どもたちにとって大切なことです。広木先生からも教わった「子どもの権利条約」を生かした支援を期待します。

賛助会員の皆さま

ご支援ありがとうございます

- ・熊本機能病院
- ・カリーノホールディングス
- ・熊本なべしま
- ・長田進文堂
- ・家族葬のファミーユ